

様式1 (視察用)

会派行政視察報告書

令和元年度会派 青雲倶楽部 の行政視察研修を、令和元年7月10日(水)から7月12日(金)の2泊3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和元年8月30日

名取市議会議長 丹野政喜様

会派名 青雲倶楽部

代表 相澤祐司



記

- 1 期 日 令和元年7月10日(水)～7月12日(金)
- 2 参加人員 3名 議員 相澤祐司、議員 郷内良治、
議員 山田龍太郎
- 3 視察先 (1) 石川県羽咋市
(2) 石川県七尾市
(3) 石川県輪島市
- 4 行程表 別紙のとおり
- 5 調査事項 別紙のとおり
- 6 所 感 別紙のとおり



令和元年 青雲倶楽部視察研修行程表

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
令和元年 7/10 (水)	<p> <small>はやぶさ102号</small> 仙台(7:21発) ⇒⇒⇒ (8:30着)大宮(9:02発) ⇒⇒⇒ <small>かがやき505号</small> <small>能登かがり火3号</small> 昼食 (11:06着)金沢(11:23発) ⇒⇒⇒ (11:56着)羽咋…………… <small>13:30~15:00</small> 羽咋市議会視察……………羽咋(15:41発) ⇒⇒⇒(16:26着)和倉温泉(宿泊) <small>JR七尾線</small> </p>	<p> 石川県羽咋市議会 所在地 羽咋市旭町ア200番地 電話番号 0767-22-7160(事務局) 調査項目 1 農業の6次産業化について </p>	<p> 日本の宿のと楽 所在地 七尾市石崎町香島1-14 電話番号 0767-62-3131 </p>
7/11 (木)	<p> <small>9:30~11:30</small> ホテル……………七尾市議会視察……………和倉温泉(13:18発) = = = <small>昼食</small> <small>のと鉄道</small> <small>北鉄奥能登バス穴水輪島線</small> (13:52着)穴水/穴水駅前(14:10発) = = = = (14:49着) 輪島駅前……………輪島市内(宿泊) </p>	<p> 石川県七尾市議会 所在地 七尾市袖ヶ江町イ部25番地 電話番号 0767-53-8433(事務局) 調査項目 1 合宿拠点施設について </p>	<p> ホテルルートイン輪島 所在地 輪島市マリンタウン1番2 電話番号 0768-22-7700 </p>
7/12 (金)	<p> <small>10:00~11:30</small> ホテル……………輪島市議会視察……………輪島駅前(12:15発) = = = = <small>北鉄奥能登バス穴水輪島線</small> <small>のと鉄道</small> (12:54着)穴水駅前/穴水(13:11発) = = = (13:53着)七尾(14:36発) <small>能登かがり火8号</small> <small>かがやき510号</small> ⇒⇒⇒(15:43着) 金沢(15:55発) ⇒⇒⇒(18:02着)大宮(18:22発) <small>はやぶさ107号</small> ⇒⇒⇒(19:29着)仙台 </p>	<p> 石川県輪島市議会 所在地 輪島市二ツ屋町2字29番地 電話番号 0768-23-1182(事務局) 調査項目 1 輪島港マリンタウンプロジェクトについて </p>	

石川県羽咋市「農業の6次産業化について」

概要

羽咋（はくい）の地名は、古事記・日本書紀には「羽咋」、万葉集には「波久比」、中世以降は「白井」「羽喰」などとも記され異なっていたが、寛文11年加賀藩主前田綱紀の時代に藩では表記を「羽咋」に統一することになったという。

明治22年の町村制施行により1町11村に整理され、昭和8年には3村が合併して邑知村になり、昭和29年に第1次合併が施行され羽咋町になり、さらに同31年の第2次合併により新しい羽咋町が誕生し、同33年7月1日に市制施行され石川県7番目の市として新しい一歩を踏み出した。

羽咋市は、能登半島の付根の日本海側に面して位置し、半島部への入り口にあたることから「口能登」地区とも呼ばれる。西部には、海流により微細な砂粒が漂着・堆積した「羽咋砂丘」と呼ばれる海岸砂丘が南北に走り、国内唯一の乗用車や大型バスが走行可能な「千里浜なぎさドライブウェイ」として全国的に知られている。

調査項目

農業の6次産業化について

目標とする将来像

安全・安心でこれまで本市が守り育ててきた天然資源や文化遺産を活した未来に自慢できる環境都市

「羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

総合戦略の基本目標

- 1, 羽咋市における安定した雇用を創出する。
- 2, 羽咋市への新しいひとの流れをつくる。
- 3, 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。
- 4, 時代にあった持続可能な地域をつくり地域と地域が連携する。

道の駅を活用した地方創生の取り組み

羽咋市5000万、農協200万、銀行2社、商工会が出資して羽咋町づくり会社を設立した。

- 1, JA里山農業塾→地域に合う生産物をさがす。
- 2, 羽咋市独自で農業機械リースを始める。

実績として、自然米「みこはら米」、「のとしし肉」を生産ブランド化をして、道の駅で販売して年間 50 万人の来店者になった。
通信販売も実施して月 20 万円位であるが、今後拡大を図っていく。

課題

- 1, 雇用の拡大
- 2, 自然栽培の普及
- 3, イノシシの特産化
- 4, 地元産品の 6 次化
- 5, 情報発信による交流拡大

考察

羽咋市でも人口減少が進み 2010 年 23,032 人であるが、2060 年の将来展望では 13,000 人位で推移を図る為に過疎化を防ぎ、地域の活性化を目指して様々なアイデアを出して実行に移している。農業の 6 次産業化も一つの取り組みである。道の駅と地域商社機能を生かしながら地場産品のほりおこし、そして販売まで拡大している事に見習う所がある。名取市もいずれ人口減少に陥る事は確実であり、現段階で対策を考える必要がある。市民との意見交換をしながらアイデアを出して、これからの対応を見出し、行政が積極的に取り組む事が必要である。

石川県七尾市

令和元年7月11日（木）午前9：30～
報告書担当 山田 龍太郎

概 要

能登の国府があった七尾の歴史は古く、遥か718年まで遡る。古い歴史を物語る古墳や遺跡をはじめ、七尾城址、数多くの文化財が所蔵されている寺院郡など七尾の歴史と文化が脈々と息づいている。

七尾市は能登半島の中程に位置し、平成16年10月1日、七尾市田鶴浜町、中島町、能登島町の1市3町が合併し、新生七尾市として新しい一步を踏み出した。この区域は、天然の良港として栄えてきた七尾港を海の玄関口とし、古代より能登の政治・経済・文化の中心地として発展を遂げてきた。また、渚のいで湯として全国的に有名な和倉温泉や様々なリゾート施設を有する能登島をはじめ、観光資源にも非常に恵まれた、魅力あふれる市である。

市制施行 平成16年10月1日
面 積 318.29Km² (石川県内 市中5番目)
人 口 52,578人 (平成31年3月末現在)
男 24,932人
女 27,646人
世帯数 22,083世帯

調査項目

1. 合宿拠点施設

(1) 合宿施設の概要と施設を活用した事業の特色及び効果について。

●合宿誘致事業取組の経緯

平成12年 和倉温泉の一部旅館がサッカー合宿を受入、サッカー合宿が徐々に浸透し、参加団体が増加。

※野球の名門校である星陵高校の川崎監督が自身の人脈で、全国の高校へ能登での合宿を進め、施設の利用向上につながってきている。そして継続している。

平成19年 「七尾市合宿等誘致事業補助金」の開始

※別紙補助金についての資料参照

平成21年 減少する宿泊者数に歯止めをかけるため、和倉温泉観光協会・同旅館協同組合が七尾市へサッカー場の建設を要望。

平成22年9月 和倉温泉運動公園多目的グラウンド完成
平成25年3月 能登島グラウンド完成
平成27年7月 和倉温泉運動公園テニスコート完成

《和倉温泉における入り込み客数の推移（人）》

平成3年 167万人がピーク
平成13年 113万人 NHK朝ドラ効果（利家とまつ）
平成27年3月 旅館組合加盟以外の合宿施設も加えると100万人超えた。
（北陸新幹線金沢開業）
平成28年・29年 80万人台へ減少
平成30年 合宿受入に力を入れて少しずつ上昇 85万人

●スポーツ合宿のメリット

1. 和倉温泉旅館の宿泊料金がお得である。
（市のHP：合宿応援宿）EX. 高校生 合宿料10,000円未満
2. 施設から和倉温泉旅館まで最短約600m
今回、青雲倶楽部の宿泊先であった「のと楽」社長の協力がスポーツ合宿を推進していく上で欠かせないものとなっている。
3. 民間、和倉温泉旅館協同組合による合宿サポート。
（宿泊先、弁当650円税込（お茶付）などの手配）
4. 合宿・大会開催の補助金あり 別紙資料参照
5. 全国の強豪校と試合ができる。

●施設管理方法

指定管理制度を採用している。

- ・施設として ①和倉温泉運動公園 ②多目的グラウンド ③テニスコート
④能登島グラウンド を管理している。
- ・管理者 和倉温泉旅館組合
- ・管理料 0円（利用料金制）
- ・管理期間 3年間（H29.4.1～R2.3.31）

●七尾市内のスポーツ施設

（1）公共施設として

- ①陸上・サッカー 1ヶ所
- ②体育館 6ヶ所
- ③野球・ソフト 3ヶ所
- ④多目的グラウンド 4ヶ所
- ⑤テニスコート 5ヶ所
- ⑥武道館 3ヶ所
- ⑦相撲場 2ヶ所
- ⑧その他 ゲートボール場・プール・スキー・ヨット

・パークゴルフ等

●誘致活動

方針 サッカー以外の競技（例：テニス、バスケットなど）で平日利用を希望するシニア層をターゲットとする。

春休み、夏休み期間は、利用者でいっぱい飽和状態、様々な大会も開催される故。

訪問先 （首都圏・関西・中京）合宿先として選択してもらえるようアピール

- ・合宿取扱い旅行社
- ・競技団体（協会や連盟）
- ・大学

※和倉温泉旅館協同組合と連携

●合宿・大会等に係る平成31年度当初予算

・合宿等誘致事業費 2,500万円

1. 補助金 2,450万円

コンベンション、スポーツ大会補助金、訪日合宿補助金

2. 誘致活動等（旅費） 50万円

能登和倉国際女子オープンテニス 600万円

開催期間 平成31年8月26日～9月1日

・補助金交付の条件

①《コンベンション、スポーツ大会等》

市内及び近隣市町村の施設で開催されるコンベンション、スポーツ大会（学会・総会・研修会）。社会教育関係も可である。

②《訪問合宿》

日本国外の団体（学生）が市内で宿泊して行う合宿、教育旅行（体験学習）であること。

●七尾市におけるスポーツ合宿受入のための施設整備について

（1）「和倉温泉運動公園多目的グラウンド」総額757,815千円

目的 防災施設 防災備蓄倉庫や避難所などの機能を有した施設

地域交流 グラウンドゴルフや散策路など、地域交流や健康増進施設

スポーツ施設 サッカーを軸としたスポーツ合宿の競技施設

完成日 平成22年9月11日

①人工芝サッカー場 3面

②フットサル場 2面

③ビーチフットサル場 1面

駐車場 普通車 104台（大型車駐車不可）

ヨットハーバー 普通車225台、大型車10台

整備費 総事業費	757,815千円	
(内訳) 測量・設計	9,848千円	(H21・691,954千円)
工事費	747,967千円	(H22・56,013千円)

財源内訳 (補助金・交付金)

地域活力基盤創造交付金	643,100千円	(85%)
合併特例債	91,252千円	(12%)
スポーツ振興くじ助成	13,614千円	(1.8%)
一般財源	9,849千円	(1.2%)

- 実績
- ・稼働日数割合 H29 (約63%) H28 (約76%)
 - ・利用チーム数 延べ2,148チーム 延べ2,534チーム
- ※H28年度に比べると13%の減となった。
- ・利用団体としては、全国的にも有名なレベルの高い高校の利用がある。その結果もあり、相乗効果で合宿の申し入れある。
 - ・全国レベルのサッカーの大会開催。

利用者数と利用料金

平成29年度は、一旦減少したが平成30年度は新たな整備がなされ盛り返した。

利用者数	平成29年度	54,605人	平成30年度	60,436人
利用料金	平成29年度	11,165千円	平成30年度	11,916千円

(2) 「一番利用率の高いサッカー場」の整備

経年劣化により芝が倒れて、滑りやすかったため張り替えを行った。
その他防球ネット修繕、観覧席修繕を行った。

総事業費225,650千円

(3) 「能登島グラウンドの整備」

(管理棟、人工芝生サッカー場2面、フットサルコート2面兼テニスコート3面、夜間照明1面、駐車場) 総事業費627,469千円
完成日 平成25年3月23日

(3) についても、国の補助金利用市持ち出し分は1割にも満たない。

(4) 「和倉温泉運動公園テニスコートの整備」 1,700名の観客収容

全天候型砂入り人工芝24面(一部ナイターあり) 管理棟、外部倉庫
全日本学生、全日本実業団大きな大会が行われている。

総事業費879,949千円、内26%が一般財源で残り補助金利用。

大きな施設整備に国の補助金を上手に活用し、スポーツ合宿の環境整備を図っている。維持管理費がまかなえる稼働日数であり、利用料金も

取れている。七尾市の人口ピーク時7万人で現在は5万人である。
いかに他所から人を呼び込むことができるか？いわゆる交流人口を増やす努力をしている。確実に成果は上がっている。

(2) 課題及び今後の取り組みについて

1. 経済波及効果としてスポーツ合宿・大会(平成29年度)約6億6,100万円
2. 合宿・大会に係る宿泊者数の増加(H23)19,107人泊→(H30)48,677人泊。
3. H28年 鵬学園高等学校(七尾市内)が全国サッカー大会初出場。
全国サッカー優勝校が毎年合宿に訪れている。
4. 市内弁当業者の規模拡大、コインランドリー開設(2箇所)。
5. H29.4合宿用宿泊施設が開業(テニスコートの脇に建築)。
以上、成果として上げることができる。

課 題

1. 閑散期の利用率向上(12月~2月)
(シニアソフトテニスサークルに声がけし200人の参加があった)引き続き働きかける。
2. 合宿利用客数が増え、ニーズに合う品揃えで客単価の向上をねらう。
3. 観光、飲食店への誘導。
4. テニスの強豪校やシニア層の誘致。

※オリンピック関連については、施設の規準が厳しすぎる。
新たに建設するには設備投資が必要→持ちこたえられない。

考 察

合宿誘致事業へ取り組むにあたって、従来から持っている七尾の資産を有効活用している。

七尾市役所と和倉温泉旅館協同組合と民間企業さらに野球名門校監督による個人的な協力など、合宿受入側としての環境整備、アクセスの充実首都圏から離れているけれども効率的な利用により移動時間がさほどかからないことをアピール。

スポーツ合宿で欠かせない条件は練習環境のグレードの高さ、練習相手のレベルの高さである。その成果は必ず個々の技術の向上につながる。

人口減少、産業の衰退に歯止めをかけるべく、未来への生き残る一つの政策として合宿誘致を選択したのである。

施設整備にかかる費用には国の補助金の有効活用が必要であり市の施策、目的を市民にしっかり示し、合宿誘致で交流人口の拡大、確保によって市の財源確保、地元の活性化さまざまな経済効果の波及につながる。

市長自ら文部科学省等ヘシティセールスに歩き、スポーツ合宿、教育旅行、農業、漁業の体験、等々受入についてアピールし誘致に努力している。

合宿を希望決定した団体には「七尾市合宿等誘致事業費補助金」の交付を要綱にしたがって交付される。

スポーツ施設、多目的グラウンドが和倉温泉のすぐそばに位置し、合宿施設と旅館つまり宿泊施設が近いことが最大のメリットである。

体力勝負のアスリートには食事、そして温泉での体のケアが出来る。理想の環境である。

すべての施設で稼働率60%~70%を維持できている。平日の利用率を上げるためシニア層をターゲットに営業をかけている。また、合宿誘致のための策として、旅行会社退職者を再雇用し、スポーツ合宿は高校、大学へそして教育旅行については中学校、小学校へ営業している。何よりも人脈が頼りであるとして市長自身合宿誘致に一生懸命である。

今後、名取市閑上サイクルスポーツセンター宿泊施設を利用しながら、名取市内の各種施設利用も併せて合宿誘致を促し、交流人口の拡大を図っていくべきである。

7月12日
石川県輪島市議会
視察研修項目

『輪島港マリンタウンプロジェクト』

実施の経緯

○目的

港文化を歩んできた輪島を更に発展させ、海・港を中心とした魅力あるまちづくりを目指し、避難港の整備と併せて、石川県と輪島市が共同で事業を推進してきた。

旅客船が寄港し、多くの出会いを創出する岸壁、浸水護岸を備え、利用の者に潤いと憩いをもたらす緑地、訪れた人々が輪島の魅力を体験できる観光施設等、輪島港の機能を充実させることで、交流人口の拡大による地域の活性化を図る。

○事業の経緯

平成 5年度	事業着手
7年度	埋立着手
21年度	観光交流施設完成〈市〉 A=1.8ha
22年度	岸壁完成〈県〉 水深 7,5m L=220m
年度	護岸完成〈県〉 L=191m
	埠頭用地完成〈県〉 A=0,5ha
23年度	緑地護岸完成〈県〉 L=460m
	ボートパーク完成〈市〉 陸上競技場 A=0,9ha
	スポーツクリエーション施設完成〈市〉 A=2,4ha
26年度	緑地完成〈県〉 A=4,3ha
	交流拠点施設完成〈市〉 A=1,7ha
	〈輪島キリコ会館・サブグラウンド〉
・全体面積 18,7ha	総工事費 160 億円
石川県施工区域	5,2ha 工事費 64 億円
輪島市施工区域	13,5ha 工事費 160 億円

○まちづくり事業の経緯

平成16年度	町名「マリンタウン」に決定
平成18年度	ホテルルートイン開業、都市再生整備計画事業 (旧まちづくり交付金) 着手、能登半島地震発生、

	輪島港マリンタウン活性化協議会設立
平成20年度	災害公営住宅(12棟)完成、市道河井海岸線完成
平成21年度	観光交流施設(朝市駐車場)完成、市道マリンタウン1・2号線完成
平成22年度	旅客船岸壁完成、 (ポートオブザイヤー、クルーズオブザイヤー受賞)
	住宅用地分譲開始(住宅建築助成制度創設)
平成23年度	ポートパーク完成、競技場完成
平成25年度	住宅地用分譲に係るモデル住宅助成制度創設
平成26年度	交流拠点施設(キリコ会館)完成、緑地完成
	輪島港マリンタウンプロジェクト完成
平成28年度	マリンタウン広場の整備(大型複合遊具)

〈利活用状況〉

・キリコ会館の入場者

平成26年度	移転前	47,940人
平成27年度	移転後	159,833人
平成30年度		80,696人

・マリンタウン競技場の利用者

サブグラント整備前	平成26年度	28,453人
整備後	平成27年度	33,717人
	平成30年度	30,122人

(改修により利用できない期間あり)

・マリンタウン住宅用地分譲件数 87軒(100軒計画の内)

平成22年度～30年度 52軒

(m^2 3万・区画150～200 m^2 ・上限4割補助)

・マリンタウンアパート用地 4軒(学生用アパート・20年間無償)

〈課題〉

(1) 各施設の有効活用

利用頻度の少ない岸壁・親水護岸棟の有効活用

スポーツレクリエーション施設の利用者の増加

(2) 道路交通網の整備

イベント開催時の交通渋滞や路上駐車解消、駐車場の確保

(3) 維持管理費の増大 (年間700～800万円)

芝生、道具点検など維持管理に必要な経費が増大

〈今後の取組〉

(1) 客船の誘致

岸壁の有効活用、マリンタウンの賑わい創出などの面から、引き続き客船誘致を実施

(2) スポーツクリエーション施設の有効活用

各種大会、合宿等の誘致

(3) 道路交通網の整備

マリンタウンへのアクセス道路を整備

〈考 察〉

輪島市においても人口減少対策と賑わいの創出『マリンタウンプロジェクト』の成功は、誘客の仕掛けで多くの滞留客を創り出す事である。

新しいまちづくりに、輪島港を活かした整備と住居用地・各施設を整備し、供用開始したては多くの利用者の賑わいを見せたが、その後減少傾向にあり多くの利用者を維持確保が課題である。

本市においても、閑上地区復興まちづくり事業年度は本年が最終年度となり、一部事業を残し完成進捗の状況となっている。

本市においても同様に、住宅用地・公共施設・商業施設等を整備し、定住促進と施設の利活用を図り、多くの交流人口で賑わいを創出して行かねばならない。公共施設の供用開始や商業施設を開店したが多くの利用者で賑わいを創出できるのかが課題である。

* (現時点では、金融機関・病院の計画に同意する企業や団体がいないので早急に誘致実現が必要となる。)

[石川県羽咋市]



▲羽咋市役所前



▲現地視察（ジビエ加工場）

[石川県七尾市]



▲合宿拠点施設（視察会場）前



▲現地視察（サッカー場）前

[石川県輪島市]



▲輪島市役所内



▲視察の様子